

国立劇場（東京）文楽公演

令和三年五月九日（日）〜二十六日（水）
 ※十七日（月）は休演日

第一部 (午前十時四十五分開演)

心中宵庚申	上田村の段	千歳太夫	下女お菊	下女お竹
富助	下女お鍋	下女お鍋	下女お鍋	下女お鍋
駕籠屋	姉おかる	姉おかる	姉おかる	姉おかる
八百屋の段	駕籠屋	駕籠屋	駕籠屋	駕籠屋
二代目野澤喜左衛門II作曲	呂勢太夫	女房お千代	女房お千代	女房お千代
道行思ひの短夜	清治	百姓金蔵	百姓金蔵	百姓金蔵
野澤松之輔II作曲	藤太夫	島田平右衛門	島田平右衛門	島田平右衛門
澤村龍之介II振付	半兵衛	八百屋半兵衛	八百屋半兵衛	八百屋半兵衛
お千代	希太夫	丁稚松	丁稚松	丁稚松
伊右衛門女房	咲寿太夫	伊右衛門女房	伊右衛門女房	伊右衛門女房
下女さん	文字栄太夫	下女さん	下女さん	下女さん
甥太兵衛	團七	甥太兵衛	甥太兵衛	甥太兵衛
西念坊	團吾	西念坊	西念坊	西念坊
八百屋伊右衛門	清丈	八百屋伊右衛門	八百屋伊右衛門	八百屋伊右衛門
庚申参り（男）	錦吾	庚申参り（男）	庚申参り（男）	庚申参り（男）
庚申参り（女）	吉	庚申参り（女）	庚申参り（女）	庚申参り（女）

第二部 (午後二時十五分開演)

生写朝顔話	宇治川蚩狩りの段	小住太夫	宮城阿曾次郎後に 駒沢次郎左衛門	宮城阿曾次郎後に 駒沢次郎左衛門
口	友之助	朝月娘深雪後に 顔	朝月娘深雪後に 顔	朝月娘深雪後に 顔
奥	三輪太夫	乳母浅香	乳母浅香	乳母浅香
清友	浪人岩淵平内	浪人岩淵平内	浪人岩淵平内	浪人岩淵平内
明石浦船別れの段	阿曾次郎	奴鹿内	奴鹿内	奴鹿内
阿曾次郎	織太夫	宇治川の船頭	宇治川の船頭	宇治川の船頭
深雪	芳穂太夫	明石の船頭	明石の船頭	明石の船頭
船頭	津國太夫	戎屋徳右衛門	戎屋徳右衛門	戎屋徳右衛門
琴	清志郎	岩代多喜太	岩代多喜太	岩代多喜太
清方	下女お鍋	下女お鍋	下女お鍋	下女お鍋

第三部 (午後五時三十分開演)

撰州合邦辻	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
中	睦太夫	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
前	綴太夫	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
後	呂太夫	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
蝶の道行	尾上墨雪II振付	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
助国	織太夫	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
小卷	芳穂太夫	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
南都太夫	南都太夫	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
亘太夫	亘太夫	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
碩太夫	碩太夫	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
藤蔵	藤蔵	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
清胤	清胤	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
寛太	寛太	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
清公	清公	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段
清允	清允	合邦庵室の段	合邦庵室の段	合邦庵室の段

ダブルキャストの前半は九日（日）〜十六日（日）、
 後半は十八日（火）〜二十六日（水）です。

前売開始II 四月十四日（水）

一等 七〇〇円 二等 六〇〇円